

油山の宝物さがし～「聞く！からはじめる森づくり」～

「油山の宝物さがし」活動は4月来、地元のお二人から油山の昔のお話をうかがい会報に報告したところで秋となりました。

「今後森を育てる会活動の中でどう位置付け、どのようなことができるかな？11月うん・えー会で話しあうためのたたき台づくりをしよう。」と9/23世話役、助役、ボランティアルームに立ち寄った会員等数名で検討しました。

【聞いて知ったことを冊子にまとめては？】

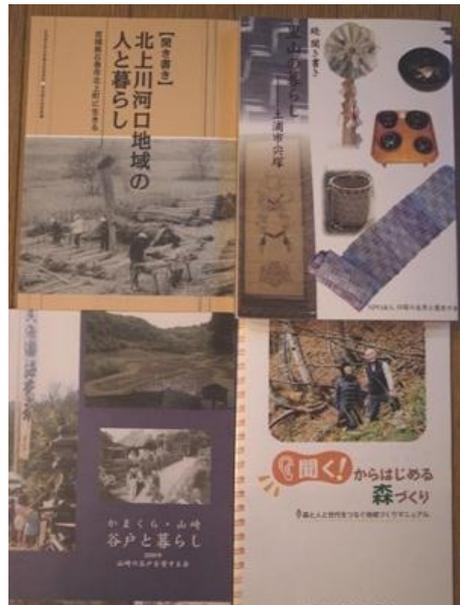
お二人のお話には初めて知ることがとても多かった。あと数名お話をうかがえないか？また準備の中で集めた地図や文献からも昔の姿を知った。来年は昔を思いながら山を歩く機会も持ちたい。それらは会員だけでなく多くの人と共有したい宝物だ。冊子にまとめては？と話しが始まりました。

【できるかな？！】

お話をうかがうことは時間を頂くこと。どなたもお忙しい中より多くの方々にご協力いただけるだろうか？書面にまとめてご理解をいただかなくては。また会の年24回活動日以外にワーキンググループで動くことも増えるが大丈夫か？親も自分も老化しているのに。冊子をどなたに読んでいただけるのか？編集ができるだろうか？
e t c

【森会の活動として冊子づくりってアリ？！】

「森を育てる会は『油山の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流』が目的。冊子はづくりは目的にかなうと思う。同時にいま作業をしたくて来ている人が多いと思うがその皆に宝物さがしの成果物として冊子づくりという活動はアリ？」とそもそも論に。「年24日全員で宝物さがしをするわけでもなし、今年のように年1回程度活動日をあてるのはいいんじゃない？」「地元の植物を利用した遊び等会活動で実践できそうなことをどんどん取り入れては？」
「全力は尽くすけど無償の範囲は超えられない。」



いい意味で『知ったしこ』まとめるでいいんじゃない」というあたりに収束してきました。

【冊子ってどんなイメージ？】

集まった皆で森や地域の昔について聞き書きした冊子を見ました。「みんな力作！」「森会ではできるしこ！」写真のようにさまざまな冊子を日本各地で保全団体等が出しています。そして森会の冊子には油山の森がどのように使われ、どのような森だったか掲載できればとまだ見ぬページを思い浮かべます。

【聞く！からはじめる森づくりとは？】

エネルギーは薪から石油へ建築材は国産材から外材にという流れの中、人と山の付き合いは薄れ社会も大きく変わりました。いま山や農地とつきあう作法を心と体に刻んだ方々が高齢化しておられます。「聞く！からはじめる森づくり」（共存の森ネットワーク刊）という冊子のタイトルは象徴的。昔の森とのつきあいを聞くことはこれからの森づくりを豊かにすると多くの人が考えているのではないのでしょうか。
＜柴戸＞